

令和元年度 特別推進研究 審査結果の所見

研究課題名	生体機能構築基盤としての上皮バリア学の新展開
研究代表者	月田 早智子 (大阪大学・生命機能研究科・教授)
研究期間	令和元年度～令和5年度
科学研究費委員会 審査・評価第一部会 における所見	<p>本研究は、生体組織と外界を隔て、生体内への物質移動を制御する「上皮バリア」について、タイトジャンクション (TJ) による細胞間バリアの分子構築とアピカル面バリアとの連携機構を解析し、生体内における上皮バリア機能の統合原理を解明しようとするものである。</p> <p>応募者は、TJ の接着分子クロードインの発見をはじめ、細胞間接着を中心に細胞生物学を牽引してきた第一人者であり、本研究計画もこれまでの独自性の高い研究とその成果に裏付けられていることに加え、構造生物学者や数理科学者と共に研究組織が構成されていることから実現性が高い。本研究によって、応募者自ら同定した「TJ-アピカル複合体」を中心とする上皮バリア学の新しい展開とともに、臨床医学など広い分野への波及効果も強く期待される。</p>